

総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会 地球温暖化対応の視点からのエネルギー対策・政策検討小委員会 議事録

日時：令和元年7月16日（火）15：30～17：30

場所：東京ガス（株）デジタルイノベーション（DI）戦略部 2201 会議室（日本生命浜松町クレアタワー 22 階）

出席者：秋元圭吾委員長、江守正多幹事、杉山大志幹事、鈴置保雄委員、近藤駿介委員、齋藤公児委員、山地憲治委員、木村幸委員、小宮山涼一委員、中垣隆雄委員、中山寿美枝委員

配付資料

- 資料1 総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会 地球温暖化対応の視点からのエネルギー対策・政策検討小委員会 議事録
- 資料2 シンポジウム等の概要について（事後報告）：公開シンポジウム「長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けたイノベーションの役割と課題」
- 資料3 学術会議「提言」もしくは「報告」の作成に向けて
- 資料4 パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略（政府資料）
- 資料5 持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する G20 軽井沢イノベーションアクションプラン（仮訳）
- 資料6 提言 Society5.0を支える電力システムの実現に向けて（日立東大ラボ）

議事

1) 議事録（承認済）の確認（資料1）

前回の小委員会での議論の振り返りを行った。

2) 公開シンポジウムの結果報告（資料2）

6月6日に記載した公開シンポジウム「長期の温室効果ガス大幅排出削減に向けたイノベーションの役割と課題」の報告がなされた。

- ・参加者はこれまで開催のシンポジウムよりも増加し、盛況だった。ただし、大学生など、若い層の参加をいかに促していくかは今後の課題。
- ・講演資料については、学術会議HPに掲載した。
- ・シンポジウムでは、質疑において、東大での2050年80%分析の試算があり（資料6）、再エネ大量でも実現可能との意見もあった。ただし、コストの情報などがなく、本来コストを含めた議論により、経済的に可能かの議論が必要と考えられる。報告書の部分だけを切り取った議論に展開されやすいので、丁寧かつ慎重な議論が必要ではないかとの意見が出された。

3) 「提言」もしくは「報告」の作成に向けて(資料3および参考として資料4～6)

資料3をもとに、今期のとりまとめとして「提言」もしくは「報告」の作成の議論を行った。また、参考として、資料4～6の紹介があった。

- ・「提言」もしくは「報告」の作成を目指すこととした。
- ・すでに各省庁の政策等が具体化されている近時点よりも、2050年頃などを念頭においた内容が良いのではないか。
- ・6月6日開催の公開シンポジウムの内容(イノベーション)を中心とする。
- ・SDGsの同時達成は重要であり、大きな内容としてはこれを指摘すべきではないか。
- ・情報技術、材料技術、バイオ技術等の基礎的な技術が、エネルギー、温暖化対策にとっても重要とする指摘は新しいところで、このあたりを強調する。
- ・前期の「報告」からは、政府は再エネ主力化という方向性を打ち出しているので、集中電源と分散電源の協調も含め、その課題と今後の方向性についても記載する。
- ・政府が現在強く推進を打ち出している、水素、CCUSなどについても記載。多くのオプションを保有し、それらのイノベーション誘発の重要性についても記載。
- ・現時点では、「提言」、「報告」のいずれを目指すかは結論を出さず、「提言」の場合の、より具体的な政策提言の内容について(エネルギー・温暖化対策につながるイノベーションをどう誘発するのか、できるのかなど)、検討を続けることとした。
- ・本日の議論をもとに、委員長が目次案と執筆担当者案を作成し、メールにて回覧し、審議を行うこととした。また、それを基に、次回小委員会までに原稿案を作成し、持ち寄ることとした。

4) その他(公開シンポジウム企画、次回委員会開催について)

- ・2020年春頃を目途に、もう1回、公開シンポジウムの企画を行う方向とした。内容としては、中国、インドの大量エネルギー消費、CO2排出国の今後の対策のあり方などを念頭におきつつ、詳細については次回の委員会で議論することとした。
- ・次回の委員会については、秋(9～10月頃を目途)に開催予定とし、具体的な日程については後日調整することとした。

(以上)